

Forest 通信

vol.134

森林インストラクター東京会 会報

2022年2月18日発行

< 令和4年度(2022年度)FIT総会のご案内 >

森林インストラクター東京会(FIT)の令和4年度(2022年度)総会を下記の要領で開催いたします。

1. 総会

日時:3月12日(土)13:00~14:30(受付12:30より)

地図はこちら



会場:林野会館5F 504会議室

文京区大塚3-28-7

地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅下車徒歩7分

(尚、新型コロナの感染状況次第では、リモートでの開催の可能性もあります。)

議題:本会報の総会議題次第を参照してください。

出欠:ML会員は、MLにて別途連絡の総会開催案内のフォームメールにて出欠を回答してください。

非ML会員は別途送付の総会開催案内に同封の葉書にて出欠を回答してください。

出欠の回答締め切りは、3月7日(月)。尚、友の会会員は、参加できません。

お願い:総会成立要件である定数(委任を含めて会員総数の1/2以上)を確保する必要がありますので、欠席の場合は支障のない限り、委任状をもって総会の決議事項を了承することにご同意ください。

2. 尚、講演会および懇親会の開催も検討しましたが、新型コロナ感染症拡大防止の観点より、中止と致します。

総会議事次第

- | | |
|---|--|
| 1. 開会宣言と定足数報告 | 9. 令和4年度(2022年度)全体活動方針報告 |
| 2. 会長挨拶 | 10. 部会活動報告と年次計画報告(事業部会、広報部会、安全部会、研修部会、友の会運営部会) |
| 3. 議長選出 | 11. 令和4年度(2022年度)報告に関する質疑と採決 |
| 4. 令和3年度(2021年度)活動総括報告 | 12. 令和4年度(2022年度)予算案報告 |
| 5. 令和3年度(2021年度)収支決算報告 | 13. 令和4年度(2022年度)予算案に関する質疑と採決 |
| 6. 会計監査報告 | 14. 議長解任と閉会宣言 |
| 7. 令和3年度(2021年度)報告に関する質疑および採決 | |
| 8. 令和4年度(2022年度)運営体制・運営委員に関する報告、質疑および採決
(休憩) | |

本号は、総会当日の議事資料となります。フォレスト通信の印刷物は配布しませんので各自（印刷等で）閲覧できる準備をして参加ください。FIT名札もお忘れなきようお願いいたします。決算および予算案は、監査終了後に旧HP「会員限定ページ」に掲載します。

尚、正式には2月森の日で議題を最終決定しますので、変更があり得ることをお含みおきください。

総会は、FITの最高決定機関であり、運営全体にわたって1年間の活動を総括し、次の1年に向けての活動の方向付けをするスタートの機会となります。日頃FIT森の日に参加できない方も是非ご出席いただき、ご意見を賜りたく存じます。

総会承認事項

1. 令和3年度(2021年度)活動総括報告

昨年の総会(2021年3月13日)は、東京都に1月8日より適用となった第2回目の緊急事態宣言下で開催されました。一旦3月21日に緊急事態宣言は解除されましたが、約1か月後の4月25日より6月20日まで第3回目が発令となり、更に7月12日より9月30日まで第4回目が発令されました。2021年は、通算で211日間に緊急事態宣言下にあったこととなります。FITとしても、会員に対して「緊急事態宣言下でのFIT活動の自粛」をお願いしました。緊急事態宣言が適用となっていない時期においても、感染拡大防止に配慮した活動となり、各イベントへの参加者人数を絞る等の実施となりました。また天候の不順も相まって、2021年度の活動は2020年度に引き続き、かなりの影響を受けました。

CONE保険の利用実績では、2019年度は、会員1,291名、一般3,023人、計4,314人。2020年度は会員488人、一般1,226人、計1,714人。対して2021年度(1月末までの11か月分)は、会員723人、一般1,469人、計2,192人でした。2020年度よりは3割ほど利用数が増えましたが、コロナ前の2019年よりは半減しています。

2021年度の活動方針として、①知名度アップ活動促進、②活動支援助成金制度の活用、③活動参加者のすそ野拡大の推進を挙げました。①では、今期より新体制となった広報部会により新しく立ち上げたFITHPによって、一般読者へのアピールが強化され、充実したものになりました。また、FIT知名度アップの一環として2016年度から実施している「山の日」制定記念まるごと！高尾山グリーンクリーン作戦は、残念ながら昨年度に引き続き中止となりました。②では、“すみだ祭り”を始めとするクラフト関連イベントは、ほとんど中止となりました。日比谷公園みどりのフェスティバル”は、Web開催となりWebでの出店となりました。活動支援助成金制度の活用は「山の日」制定記念まるごと！高尾山グリーンクリーン作戦関連で事前に用意した横幕等に留まりました。③に関しては、事業部会で実施のイベントにおいて、できるだけ多くのメンバーにイベントの主幹事を経験してもらう観点より、特にふれあい事業での主幹事の入れ替えを図りました。また入会年次の若いメンバーを対象にした「体験」参加を促進しました。

2021年度も主にコロナ関連で予定した活動が十分にできなかったことも踏まえ、活動方針は2022年度に引き継いでいくことに致します。

2. 令和03年度(2021年度)決算報告・監査報告

別紙(監査が終了後、別途旧HP会員限定ページに掲載します。)

3. 令和4年度(2022年度)運営委員(案)

会長	宮	入	芳	雄	(05年)	新任
副会長	入	江	克	昌	(27年)	新任
事務局長	藤	岡		眞	(28年)	留任
会計	横	井	行	男	(29年)	留任
監査	熊	木	秀	幸	(28年)	新任
広報部会長	鍛	冶	健	二郎	(28年)	新任
安全部会長	入	江	克	昌	(27年)	留任
事業部会長	長	谷	川	守	(24年)	留任
研修部会長	小	勝	眞	佐枝	(25年)	新任
友の会運営部会長	芝	原		久	(30年)	留任
前会長	斎	藤	幸	雄	(14年)	退任
前副会長	高	橋	喜	蔵	(04年)	退任
前監査	飯	塚	義	則	(29年)	退任
前広報部会長	宮	崎		健	(22年)	退任
前研修部会長	高	橋	喜	蔵	(04年)	退任

4. 令和4年度(2022年度)全体活動方針・年次計画

(1) 全体活動方針

2022年度は、新任の会長、副会長の体制となります。新体制の下、斬新な方針が期待されます。

2年以上続いている新型コロナの影響でFITの活動もかなり制限を受けており、まだその終息が見えない状況です。これまで以上にお客様およびFIT会員の安全を第一とした活動が前提となりますが、従来から掲げている以下の三つの重点施策は更なる改善の余地があり、推し進めていきます。

①知名度アップ活動促進、②活動支援助成金制度の活用、③活動参加者のすその拡大策の推進です。①については、これまで積み上げてきたイベントをコロナ禍で途絶えさせることなく、継続実施していきます。その際には、従来通りFIT腕章および名札の着用によりアピールします。広報部会と連携して新HPを継続的に充実させて、一般閲覧者への情報提供を図ります。また懸案になっている会員紹介欄の充実、FITの紹介資料(A4リーフレット)、PRカードなどの最新化を実施します。②については、運用実態の総括と効果分析をしたうえで、対外的かつ社会的貢献度の高い活動に、FIT会員がより多く参加できる機会の掘り起こしを図っていきます。③については、対外的には、広報部会と連携して新HPを活用して一般閲覧者にイベント情報へのアクセスの増進を図ります。対内的には、スキルデータを整理して使いやすくする工夫をします。また事業部会と連携して、実施中の体験活動の促進、イベントを主幹事として実施する人材の育成を図り、新規案件を受け入れる

人材確保に努めます。また「運営委員会(森の日)」に、より多くの会員の意見が反映されるような工夫を検討します。

(2) 各部会令和3年度(2021年度)活動報告および令和4年度(2022年度)活動計画

各部会よりの報告、計画の通り

(3) 令和4年度(2022年度)予算

別紙(2月森の日以後、別途旧HP会員限定ページに掲載します。)

各部会報告と年次計画

事業部会

事業部会長 長谷川 守

1. 令和3年度 活動報告(令和4年2月5日 時点)

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言期間が約6ヶ月にも及ぶ中において、事業部会は月1回の林の日会議(会議室、オンラインを併用)開催し、様々な制約を乗り越え、多くの案件の実施・運営を行ってきました。「高尾森林ふれあい推進事業」では協定イベント9件実施、スタッフ延べ92名で延べ224名の方を高尾山の案内をしました。この中には親子観察会2回の実施も含まれています。また、次世代育成に向けた「イベント体験参加」には延べ6名の方が参加しています(イベント中止:12件)。「田園調布学園土曜講座」では3件実施、スタッフ延べ10名で61名の生徒を指導しました(講座中止:5件)。「ネイチャークラフト等の体験」はほとんどが中止になりましたが、“緑とふれあうフェスティバル”がオンライン開催という事で、写真動画の展示で参加、フォトコンテストの景品として“クラフト3点セット”を30組提供しました。フォトコンテストへの応募数3,579件、FITブース来訪件数235件という事でした。それなりにFITのアピールは出来たと思います。「高尾山GC作戦」は、5回実施、スタッフ延べ33名で延べ156名(一般98名、FIT会員58名)の方を案内しました(中止:7回)。「低山はいかい」は5回実施、延べ78名の方が親睦を深めました。「外部案件」は10件実施、スタッフ延べ73名で680名の方を案内しました。主に、小学校3校、中学校2校、高校1校と生徒の自然体験を応援をする機会が多くあり学校から生徒の感想文などを寄せられた事もありました。

このように、コロナ禍でもあっても「FIT会員の活躍する場」(例えば森の案内)は、社会から必要とされている事を実感できた年度でもありました。

追伸:参加人数は集計上若干の差異があります。

2. 令和4年度 活動方針・計画

令和4年度もコロナ禍でのスタートになりますが、FITの担当部門の一つである事業部会は、例年多くの案件の実施・運営を担っています。多くの会員の参加、協力、支援によって行われていますので、粛々と確実に、安全に実施・運営をしていきます。毎月1回の定例会議(林の日)では、FIT及び事業部会の情報や連絡事項の確認、各イベントの担当者より現状の報告や相談など、経験・入会年・年齢などを超えて自由闊達な意見交換を行っていきます。その為にも、女性スタッフを積極的

に受入れたいと思っております。

令和4年度も「森林ふれあい推進事業」、「田園調布学園土曜講座」、「ネイチャークラフト等の体験」、「高尾山GC作戦」、「低山はいかい」、「外部案件」などが予定されています。これらのイベントでは参加された方々に“参加してよかった、楽しかった。次回も参加したい。”という満足感を味わって頂けるようにします。また、将来に向けて人材の育成にも心がけていきます。イベントスタッフには積極的に入会年の新しい会員及び経験の浅い会員に声をかけ、特に森林ふれあい推進事業イベントでは“体験参加”を呼びかけていきます。

事業部会のスタッフは、それぞれに担当を分担しながら、会員への参加の呼びかけや会員のコミュニケーションを図りながら運営を行なっていきます。また、事業部会は従来から“開かれた運営”を心がけています。どなたにも門戸を開放していますので、皆様の参加をお待ちしております(第2木曜日 18時～)。

以上

安全部会

安全部会長

入江克昌

【2021年度報告】

2020年度に引き続き、緊急事態宣言発令下での活動自粛、緊急事態宣言が適用されていない時期も感染拡大防止に配慮し参加者人数を絞る活動となりました。その結果CONE保険利用の実績(2022年1月までの11か月)は2,192人となっており、コロナ前の実績の約半分となっております。

各グループでは感染防止策を講じながら、安全に十分配慮してイベントを実施して頂いた結果、2019年度から3年連続で“事故ゼロ件”となりました。(2022年1月末現在)

安全部会の活動として、以下の安全講習を行いました。

- * 4月1日(木)木の日研修で、ZOOMによる『安全講習・座学』を開催し、安全部会からFIT内の最近の事故の原因・対応とCONE保険について説明しました。また事業部会長経験者の田口農雄さんと瀬川真治さんから色々な経験談を伺いました。
- * 9月19日(日)に、『安全講習・野外編』を、秋の親子観察会の下下見を兼ねて、実際のコースを歩いて、本番で想定されるコースの状況、注意点を参加者全員で確認しながら行いました。

【2022年度活動予定】

今年度から吉原邦男さんに代わって古谷一祐さんに副部会長に就任いただきます。吉原さんには長年に亘り、安全部会運営にご尽力頂き、ありがとうございました。

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策を最優先にしながらの活動になると思いますが、「安心して参加、安全に実施」を目標に、会員の安全意識の更なる向上を図っていききたいと思います。

安全部会の活動として、以下を予定しています。

* 4月7日(木)木の日研修で、ZOOMによる『安全講習・座学』を行います。

第一部では外部講師による安全に係わる講演を行います。

第二部では安全部会から「FITT安全対策の手引き」の使い方、CONE保険等について説明します。

* 『安全講習・野外編』は、今年も、夏の親子観察会の下見時に、実際のコースを歩いて、実践形式で行います。日程、詳細等は、後日FIT-MLでご連絡します。

以上

研修部会

研修部会長

高橋喜蔵

■ 令和3年度研修部報告ならびに令和4年度活動計画について

令和3年度の研修は、実践・森づくり技術講座、草木染め講座、木の日研修、野外研修等を実施してきました。

木の日研修(座学)は密を避けるため、リモートで実施しています。リモートによる実施に様々なご意見をいただきましたが、好意的なご意見が多数を占めました。研修会場まで距離があり参加が困難だった会員からは大きな反響があり、参加者も大幅に増えています。また、遠方に在住の方にも講師をお願いしやすくなりました。講師の了解を得て、研修内容を録画で見ることが可能としています。2021年度の木の日リモート研修参加者は延べ704名、録画へのアクセスは983件。引き続き令和4年度の木の日研修はリモートで実施する予定です。

野外研修は、コロナ禍の影響で中止や延期を余儀なくされた研修も多くありました。参加者数を絞って実施し、学名、シダ、樹木、コケ、冬芽、野鳥観察などを実施しております。

令和4年度も入門研修から専門的な研修まで、色々と計画しております。決まっていない計画もありますが、順次決定していきます。草木染め講座と実践・森づくり技術講座については計画が固まり次第、研修部HPに掲載します。野外研修は新型コロナウイルスの感染状況により、中止や延期になる場合もありますのでご了承ください。

新しい会員の方々は、研修を通じて新たな分野を学ぶきっかけを掴んでください。お仕事をされている方でも参加しやすいよう、野外研修は土日の実施を多くしています。研修に参加し、インストラクションの「引き出し」を増やしてください。また、会員同士の交流の場として大いに活用していただければ幸いです。

令和4年度研修計画(案)

月	野外研修	木の日研修
3		16日(水)「自然の中で美しい生きものと出会う」 講師:藤原裕二(FIT) 場所:リモート 定員:99名
4	20日(水)「学名から迫る植物の素顔」 場所:小石川植物園 講師:横山茂(FIT) 定員:30名 23日(土)地形①深大寺 講師:小泉武栄 定員:15名 29日(金)小金井公園樹木観察会 講師:大石征夫(FIT) 定員:30名	7日(木)安全研修『「安全対策の手引き」の使い方・他』 講師:入江克昌(FIT) 場所:リモート 定員:99名
5	17日(火)夏鳥観察入門(第1回) 場所:日影沢 講師:吉原邦男(FIT) 定員:15名 予備日:5月28日 21日(土)地形②鳩ノ巣溪谷 講師:小泉武栄 定員:15名 28日(土)夏鳥観察入門(第2回) 場所:日影沢 講師:吉原邦男(FIT) 定員:15名	休会
6	1(水)「磯の生き物入門」 場所:神奈川県三浦半島 講師:高橋喜蔵(FIT) 定員:15名 18(土)クモ研修 講師:新井浩司 場所:あきる野市横沢入 定員:15名	2日(木)「未定」 講師:西谷香奈(FIT)
7		7日(木) 講師: 場所:リモート 定員:99名
8	20日(土)クモ研修 講師:新井浩司 場所:あきる野市横沢入 定員:15名	休会
9		1日(木)
10		6日(木)
11		3日(木)
12	10日(土)冬芽入門 場所:昭和記念公園 講師:臼井治子(FIT) 定員:30名	1日(木)
1	15日(日)野鳥研修① 講師:後藤裕子(FIT)、香川淳(FIT) 場所:昭和記念公園 29日(日)野鳥研修② 講師:後藤裕子(FIT)、香川淳(FIT) 場所:昭和記念公園	休会
2		2日(木)
3		2日(木)又は11日(土)総会時

1. 2021年度の活動報告

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、年度前半の数回資格取得支援講座の日程を変更しましたが予定通り全講座を実施することができました。

感染防止を徹底し、手指の消毒や室内の換気、受講者の間隔を確保して、8月の模擬試験まで、4科目の講義・演習と実習を延べ7回実施しました。

試験後は資格取得後の活動に役立つように、3分野(森林作業、自然観察、野外活動)の基礎研修を行いました。

森林作業では、間伐・枝払い・玉切り作業を、自然観察では実技試験を想定した一人5分の植物解説を、野外活動では火燻し作業・飯盒炊爨・薪割りを体験し、それぞれの作業で指導する基礎を習得しました。

資格取得支援講座の講師と運営スタッフの皆様のご協力のお陰で、2021年度は会員4名と会員外で講座を受講した3名の方が資格を取得しました。

今年度も無事に運営できましたのもFITの皆様のご支援のお陰です。感謝申し上げます。有難うございました。



2. 2022年度の活動計画(芝原)

森林インストラクターやFITの活動に関心がある方と森林インストラクターの資格取得を目指す方を対象に友の会活動を実施します。

FIT活動に参加したい方は、FITメーリングリストに登録して会員限定の研修会等の募集情報を提供し各自で参加頂きます。

資格取得を目指す方は、資格取得支援講座に参加して頂きます。

資格取得支援講座は、3月から8月まで森林インストラクター養成講習テキストに準拠し4科目の概要解説、過去問を利用した演習、テキスト内容を実物で確認する実習を行う予定です。

8月に模擬試験を行い、一人でも多くの会員が資格取得できるように取り組みます。

年度後半は森林インストラクター資格取得後の活動に役立つように、森林作業、自然観察、野外活動の分野で基礎研修を実施する予定です。

新年度は、新スタッフも加わり事務局、運営スタッフで運営します。

講座・構成は継続し、FIT所属グループの紹介を行い資格取得後の自分の活動を考えていただく機会を作っていく予定です。

また、友の会活動を理解していただく目的として、FIT会員へも参加募集を行う予定です。

講師、状況を判断し数名を予定しております。

FIT会員の皆様へのご願いです。

2022年度の「FIT友の会」会員を募集しています。

皆様の知人や友人に、FITの活動に関心のある方・森林インストラクターの資格取得を目指す方が居ましたら「FIT友の会」運営部会をお教えください。

どうぞよろしくお願いたします。



2021年(令和3年)度 広報部会の活動報告(宮崎 健)

2020年5月に齊藤会長よりF I Tホームページ改革の提案が発せられプロジェクトチームが発足し様々な提案を行い2021年の総会にて新広報部会によるH Pの方針が承認され2021年4月1日から開始しました。それに伴う活動について報告します。

・広報部のミッションを明確にしました

従前のホームページ(以下H P)には本来のH Pコンテンツ(情報の発信)とデータベース(記録の保持)が混在していましたので それを整理するため
広報部会は①H P制作・維持・管理 ②フォレスト通信発行 に絞り込みました。
W E B上のデータベース(記録の保持)は事務局の了承を得て事務局に移管しました。

(それゆえ事務局の負担増に対応したスタッフ増を検討願いたいと提案します)

・ホームページのリニューアル(再構築)

まず、第一に外部からの閲覧者に(F I T会員も含め)興味を持って頂けるH Pを目標としました

(目を引く写真映像を増やし、構成をできる限りシンプルにして字数を減らして馴染みやすいデザインにしました)

・コストダウンを実現しました

1 特殊技能「それが元で「高報酬」につながる」が不要な新しいソフト「JIMDO」採用しました(自動車の運転で例えるとマニュアル車からオートマ免許)そして、各部会・(既に立ち上がっていた)登録グループのH Pとの連携「リンク付け」を最大限活用して、同じような「重複作業」を排除してスタッフを削減することが可能となりました。

* 各部会でのH P立ち上げというご協力を頂いたことに感謝しております。

2 報酬体系を抜本的に「時間給でなく役割給」に改訂しました。 部会活動を本来のボランティア団体の活動に適應させたものです。

3 役割分担を均等化して「高額と思われる」役職謝金を廃止し謝金を平準化しました。

・広報部内のコミュニケーションを図りました

部内のミーティングを毎月開催(zoomで)してH P他、広報活動全般に亘り境目のない意見交換を通じて部員相互の意思疎通を図りました。議事録も作成して後日の参考に保存しております。

(今後の課題)

・コンテンツの充実(外部からのH P訪問者やF I T会員が興味を抱く記事がまだまだ十分ではありません)

・投稿の増加(外部閲覧者や部会・グループに属さないF I T会員から投稿しやすいページを作り、多様性のあるH Pを目指すべきかと考えています)

・過去のフォレスト通信の活用(黎明期の活気を感じて頂くこと。また、読みやすいダイジェスト版にしてF I T設立からの趣旨や歴史を理解して今後の活動指針に役立てたい)・林業系活動の情宣(林業系活動をされておられるメンバーの数が少な

いこと、また寡黙な方々が多いと思われます。活動の発信がFITの活性化には必要ではないかと感じております)

(問題点)

・データバックアップができない(規格品のソフトでありデータベースには不適であります。投稿情報の「写真と文章」のバックアップは別途保管済みですがHP復元への活用は難しい)出来ればITに詳しい会員の改善提案を頂きたい。

広報部会 2022年度 活動計画(鍛冶健二郎)

昨年度から新広報部会による新しいFITホームページの運用を始めました。主な狙いは①閲覧者が読みたくなるような魅力ある内容②活動費コスト削減の2つでした。

②活動費コスト削減については各部会やクラブがそれぞれにホームページを立ち上げて頂き、広報部会会員の作業は大幅に削減されました。

またJIMDOの導入により、ホームページ作成作業も楽になりました。2022年度はこの方針を継続し、引き続き、ローコスト体制を維持します。

しかしながら、FITホームページから各部会やクラブへのリンクが分かりづらい点や、FITの活動全体を見渡すのがやりにくくなった点等があり、2022年度はこれらの問題点に取り組んで行きたいと思ひます。

①閲覧者が読みたくなるような魅力ある内容については、写真をメインにして画面をシンプルに見やすくしました。トップページのスライダー画像を公募で決め、毎月季節に合った写真に入れ替えるようにしました。

2022年度もこの方針は変わりません。

どうすればもっと魅力ある内容にできるか。一般の方々や部会やクラブに属していないFITも含めた全閲覧者が毎回期待してFITホームページを開きたくなるような内容にして行く為の方策を考えて行きたいと思ひます。

その為には広報部会メンバーのみならずFIT会員や一般の方々にもお知恵をお借りして、進めて行きます。

新年観察会 開催さる

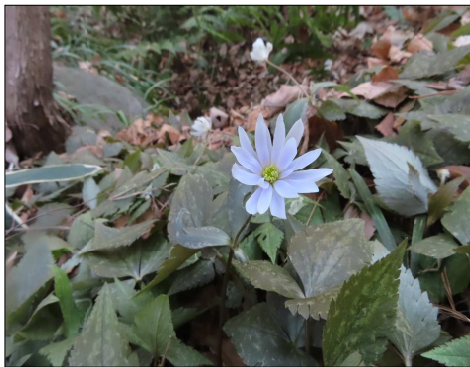
二〇二三年一月八日、新年観察会が約八〇名の参加のもと目黒自然教育園で開催されました。

コロナウィルス蔓延で昨年は中止、今年はオミクロン株が急拡大の兆しの中、開催が心配されました。

この新年観察会は三年目を迎えたメンバーが幹事となって、最後の年度の協力を得て日頃の勉強の成果を広く会員に披露するものです。

単なる説明ではなく、生活とどう結びついているかや和歌や俳句、言い伝えなどを交えながらとても身近で好感のもてるものでした。

ハンノキの花多き年 不作無し
ハナ 葉見ずヒガンバナ
・キチジョウソウ 花付きが悪いので咲くと縁起がよい
・チャノキの地図記号は実の断面の形から… 桑の木を横から見



ユキワリイチゲ

た形 Y

・樹幹にノキシノブが付いていたから、その方角は北

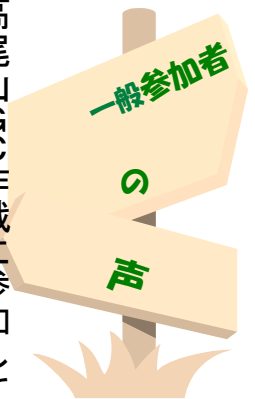
など…トヲノオズカケ、ユキワリイチゲなど初めて見るものもありました。聞き手と一体になり和気あいあいの雰囲気の中、無事終了しました。

三年間の間に得た知識は貴重な財産です。今後大きく活躍されることを期待します。参加いただいた皆様にも御礼申し上げます。

なお、来年は皇居東御苑の予定です。

「高尾山GC作戦に参加して」

八巻 弘美
三浦 けい子



冬枯れの山を登っている時、ガイドさんが「この山、楽しいねえ。面白いものが、いっぱいある。」と落ちていた木の実や葉っぱを拾い、説明してくれました。聞けば、森林インストラクターの資格も持っているとのこと。

森林インストラクターの存在に興味をもち高尾山GC作戦に参加するきっかけになりました。参加して、スタッフの方々の観察力がすごくて博識なのに驚かされます。木を調べるのに葉だけでなく樹肌、形、冬芽、葉のつき方、それに落ち葉まで手がかりとなることを知り、樹木にも興味もてるようになりました。花がない季節でも楽しみながら登山できることを知りました。何回か参加して少しずつ名前が分かるようになると、楽しさが倍増します。

高尾山の地形や薬王院の歴史も教えていただき、より深く高尾山が大切な山と感じられるようになりました。今年最初のGC作戦ではゴミがほとんどなくて良かったです。高尾山の自然がいつでも守られていてほしいです。

高尾山の地形や薬王院の歴史も教えていただき、より深く高尾山が大切な山と感じられるようになりました。今年最初のGC作戦ではゴミがほとんどなくて良かったです。高尾山の自然がいつでも守られていてほしいです。

思い出に残る山行

浜畑 祐子

【思い出の山行】と言えば、やはり2013年8月の低山はいかい倶楽部『一泊二日奥日光』でしょうか。「日帰りでは行けない、でもちょっと気になる所を」ということで、はいかい倶楽部で初の一泊の山行が設定されました。それが「奥日光刈込湖・切込湖ハイキングコース」です。

東武日光駅からバスで一時間余りの湯元温泉(1,500m)、そこは新涼の郷でした。源泉の湧き出る様を見ながら登山道に入り、1,500～1,700mあたりの樹林帯をはいかい、ダケカンバ・ウダイカンバ・ウラジロカンバ、ミネカエデなどカエデ科の木、そしてアスナロやカラマツ・コメツガ・クロベの大木など、日帰りハイクでは目にすることのない木々に次々と遭遇、至福の時でした。樹林帯をすぎると湖が目飛び込んできました。それがエメラルドグリーンに輝く刈込湖、最初の湖です。

昼食を兼ねてゆっくりしていると、湖の向こう岸近くで、何やらもぞもぞ動いているものが。あれは何？ 一同興味深々で「船から犬が落ちた」「いや、ウナギだ」「鳥かな?」「さかな??」... その物体は明らかに遊泳を楽しんでいる様子で、ゆっくり泳ぎ回りながら向こう岸へ上がっていききました、それはニホンカモシカ!! ずんぐりしたその巨体は泰然としていて、一日目のハイライトでした!!! お疲れ様です。

昼食後、高揚冷めやらぬままもう一つの湖、切込湖から涸沼を経てミズナラの純林の中を光徳牧場(1,470m)へと下りました。宿はすぐそこ、アイスでがんばれ!! 温泉で体を癒し、宴会で心をリフレッシュ、旅の醍醐味ですね。

翌日はバイカモの揺れる清流沿いの遊歩道をめぐり、戦場ヶ原・小田代ヶ原へ出ました。木道はいかいしながら主に草本を観察、ワレモコウを筆頭にオゼヌマアザミ・ハナイカリ・エゾリンドウ・バイケイソウ・サラシナショウマ・サワギク・イブキトラノオ・ハクサンフウロなどなど 秋の草花が目を楽しませてくれました。もちろん戦場ヶ原の貴婦人(シラカンバ)も優美でした。

帰りに東大日光植物園に立ち寄り、二日間の復習をしたことは言うまでもありません。駅の近くの温泉で体を癒し、反省会で心をリフレッシュ。はいかいの醍醐味ですね。

東武日光駅から浅草まで二時間、車窓の山々が夕日に染まっていく中、極上の反省会ができました。2013年以降、「一泊二日はいかい山行」は毎年引き継がれています。みなさん大いにはいかいしましょう。

今回の執筆にあたり、当時の資料や写真は瀬川さんに提供していただきました。瀬川さんありがとうございます。



よく見ると貴婦人が



いついつまでも

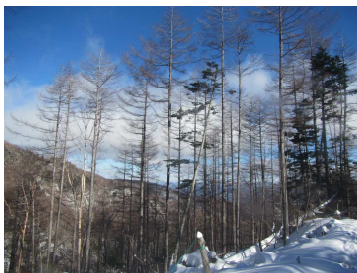
私の好みのフィールドは、自分が登る山行形態によって変化してきた。

山登りのスタートは、丹沢、奥多摩である。10代の頃である。

20代30代は社会人山岳会に所属していたため岩登りに集中していた。その時のフィールドは北岳バットレスだ。谷川岳、穂高、甲斐駒にも通ったが、何ととっても気に入っていたのは北岳バットレスで、それもピラミッドフェイスがお気に入りだった。バットレスを登攀しきるとクライマーしか見ることが出来ない高山植物の花園の中を歩くことが出来るのも魅力だった。

40代50代は、夏は沢登り、冬は山スキーに熱中していた。沢の山域は、奥多摩、アルプス、東北、北海道と広い範囲にわたっていた。山スキーの山域も奥多摩を除き同じような地域だった。沢を遡行し、途中でツェルトを張り、岩魚を釣り、焚火を囲みながら一杯やるのは最高の贅沢だった。

60代70代になると体力が落ちて来たので山行形態も尾根歩きが主流になり、山域も10代と同じ奥多摩が中心となってきた。



70歳を過ぎた今の私の好みのフィールドは八ヶ岳だ。それも冬の八ヶ岳だ。

雪をまとった真っ白な山の美しさは格別である。50年近く毎年、年末年始にはアルプスに挑戦していたが60代の後半からは八ヶ岳がマイフィールドになっていった。冬の八ヶ岳は年寄り向きである。トレースがあるのでラッセルをする必要がない。それに山小屋が充実している。樹林、山の展望がとても美しい。そのためこの7~8年の年末は北八ヶ

岳に入るのが定番となっている。2021年の年末は稲子湯からスタートした。最初に現れるのはカラマツ林だ。葉が落ちているので空が広く見える。薔薇に似た松かさが雪の上に落ちている。カラマツからダケカンバ、コメツガの林になってくるとしらびそ小屋が見えてくる。小屋は餌付けをしているので小屋の近くにはリスや様々な鳥たちが餌を食べに来ている。可愛い光景である。一日目の宿は本沢温泉だ。この辺りの林はオオシラビソだと思う。雪をまといモンスター状態になっている。2日目は本沢温泉をスタート



し夏沢峠、箕冠山、根石岳、東天狗岳と登り黒百合ヒュッテ泊まりとした。根石岳、天狗岳の稜線は強風で吹き飛ばされそうになってしまった。森林限界を超え樹林はなくなっていた。三日目は黒百合ヒュッテからしらびそ小屋経由で稲子湯に戻った。稲子湯温泉でゆっくり体を温めて帰京となった。毎年の私の好みの八ヶ岳である。あと何年冬の八ヶ岳に来られるかなあと思ったりする。80歳までは楽しみたい。

やけに体が重く、荷物も重い。こんなはずではなかった---といつも思う。登山道に入り、登り始めて1時間も経たない内のことである。喘ぎながら自問自答を繰り返す---、“何ておバカなの！ 何でこんなことしているの！”と。しかし体が山に順応し始め、歩くりズムが出来てくるといつの間にかそんな思いは消え、ただ次に足を置く場所を考えている。空の青さと木々の緑に勇気づけられ、一步一步踏みしめながら登る。

この山と決めてから、ルートや歩行時間の資料をあちこちからかき集め、公共交通機関の時刻表を調べ、自分の体力に見合うベストなルートを見つけ、宿泊状況なども確認して計画書を作成する。でもいつも目標は無事に帰ってくる。そして楽しんでこられたら尚良しとしている。録画しておいたビデオやネット上の情報を見て、ルート状況がある程度頭に入れ、あとは天気次第。天気が安定しているとなれば、スワッチ山ヘゴー！

体力はあまりないので、歩く速度は牛歩のごとく---となれば、後から来る人達に喜んで道を譲る。ゆっくりだが、自分の体と意識に向き合っているようで、それがとても嬉しい。そして時折吹いてくるあの涼しい風が心地よく、疲れと緊張をほぐしてくれる。

しかし数時間後、そんな悠長な事はいってられなくなる。高度が上がり、ますます疲れがたまってくると、前に一步を出すのが至難の業となり、見上げれば果てしなく登りは続いている。本人はいつも通りの顔をしているつもりでも、下山してくる人が私の顔を見て、一様に“大丈夫ですか？”と心配そうに声を掛ける。有難いことだが、きっと鬼のような形相をしているのだろう。やっと避難小屋が見えた時は、ホットする。何よりもまずは遭難せずに無事に小屋に着いたことに安堵。思い荷物を小屋に置き、身軽で山頂を目指すが、それでも目の前の山頂がこれまたやけに遠い。

やっとの思いで山頂に辿り着いた時は、ヘロヘロ。誰もいないことをいいことに大の字になって寝そべる。風が冷たい、汗が冷えてきたようだ。---と顔に雨粒が当たり始めた。黒雲が広がり始めたので、そそくさと小屋に避難。同時に大雨となり小屋中に雨音が鳴り響く。

しばらくするとあの黒雲は去ったようで、夕闇迫る目の前の峰々は赤く燃え



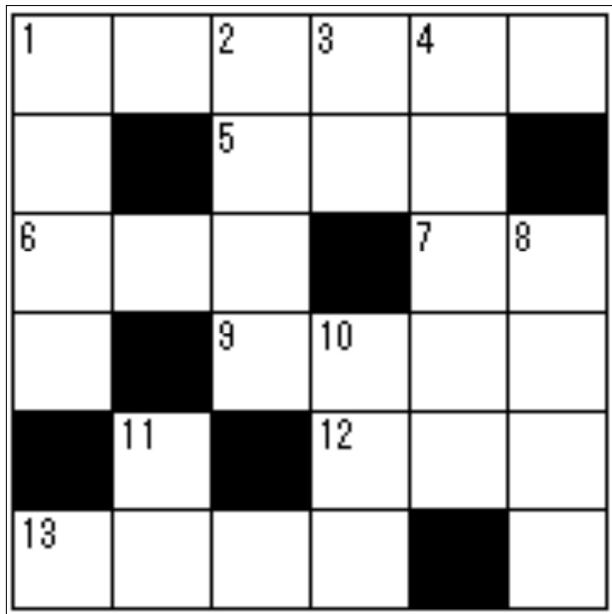
上がり、様々な形の雲が幾重にも重なり、それは圧倒的な迫力をもって、計り知れない空という空間の奥行と広さを演出して見せてくれる。それは神々しい世界――、目の前で繰り広げられている今まで見たことのない光景に感動で言葉が出ない。ただこの時この場所に居合わせた自分を幸せに思い、感謝でいっぱいになる。

翌日、晴れ渡った空の下、ゆっくり下山。途中、見晴らしの良い場所で美味しいお菓子でお茶タイム――、山を存分に楽しむ。しかしいつも思うことであるが、山に行くとどこか自分が浄化されるからだろうか、それとも緊張から解きほぐされるからなのか、とても良い人になったような気がする。どんな人に対しても純粋に優しさを持って接することができるように思えるのだ。ただ、無事に帰宅した数日後、図らずもそれは大きな勘違いであったことに気づかされるのだが――。

(2019年空木岳)

簡単!

FITクロスワードパズル



タテのカギ

- 1 尾根筋に生える樹木
- 2 スイバやこの仲間は、ベニシジミの食草
- 3 千葉県の県木といえばイヌ〇〇
- 4 関西と関東では模様がすこし違う 〇〇〇〇〇セセリ
- 8 細い方からするのがセオリー
- 10 早春に咲くウグイス〇〇〇
- 11 昆虫が脱皮・変態して成虫になること

ヨコのカギ

- 1 高尾山のチョウといえば
- 5 これが高いとすこしためらう
- 6 狩猟を生業とする人
- 7 神に捧げるコメを作るところ
- 9 ハイキングに行くとよく見るネットの……
- 12 イソップ童話は……
- 13 キツツキの仲間

春の訪れ



ヤマアカガエルの卵塊

2022/2/14 東京都中野区

*** 事務局便り**

今年に入って、オミクロン株の影響もあり、新型コロナウイルス感染症の陽性者数が急激に拡大しています。東京都にまん延防止等重点措置が1月21日より適用されています。

引き続き感染防止対策に十分な配慮を重ねてお願いいたします。

本号は、3月12日(土)開催 令和4年(2022年度)FIT総会のご案内および議事資料掲載しています。皆様、必ず目を通してください。

● **会員情報** : 1月31日現在会員数 : 348名(含む新入会員10名)

お知らせ

(1) 令和3年度(2021年度)森林インストラクター合格者およびFIT入会者
 全国で受験申込者284名(昨年度は277名)、合格者100名(昨年度134名)。
 東京都在住の合格者は、18名。FITへの新入会者は、他県在住者も含めて、1月末現在10名。

資格試験過去5年間の動き

	合格者数	受験申込者数
2017年	119	443
2018年	135	383
2019年	107	382
2020年	134	277
2021年	100	284

資料提供(一社)日本森林インストラクター協会

(2) FIT名簿更新

FIT会員(含む友の会)名簿の次回更新は3月末となります。最新版が旧HP会員限定ページに掲載されていますので、ご確認いただき、訂正等があれば3月20日ごろまでに事務局あてにご連絡ください。

さい。

(3) 来期会費関係

別途、会計よりご連絡の通り、令和4年度(2022年度)の会費(¥5,000/年)納入(2022年3月1日~2023年2月末日分)は、2月末日です。

自動払込を申し込んでいる方は、2月28日が引落日となります。

2月27日までに、余裕をもって口座に入金をお願いします。

振込をされる方は、2月28日までに、FIT口座に入金をお願いします。

(4) 新年イベント

今年の新年イベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より懇親会は昨年引き続き中止とし、1月8日(土)に「新合格者FIT入会説明会」および「新年自然観察会」が実施されました。

「新合格者FIT入会説明会」場所:五反田カンファレンス 新合格者8名参加
 令和3年合格者同期会の愛称は“みきの会”となりました。

「新年自然観察会」場所:国立科学博物館附属 自然教育園

参加者数:81名(内 新合格者7名)

幹事の“みわの会”(30年)の皆様、大変お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

答え

㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫
㊬	㊭	㊮	㊯	㊰	㊱
㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	㊿	㊿	㊿	㊿

フォレスト通信 Vol.133

発行者 森林インストラクター東京会
 編集 広報部会(宮崎、清水)
 事務局長 藤岡 眞
 住所 〒150-0022
 東京都渋谷区恵比寿南3-9-23-501
 090-1665-4589
 メールアドレス: sfujioka0206@yahoo.co.jp